

広州の開墾地における越冬ムクドリ^{シゲムクドリ}のねぐら集合現象

張春蘭 1・張建新 1,2・胡軍華 1,3・胡慧建 1・馬蘇全 4・郭咏杰 1

1 華南瀕危動物研究所広東省野生動物保護与利用公共實驗室

2 華東師範大学生命科学学院 3 中南林学院生命科学与技術学院

4 広州市番禺区新墾鎮圍墾公司

訳 福井和二

1 研究地域

新墾鎮^{シンケン}の位置は東経 113.35° 北緯 22.36° 広州市の最南端、珠江河口の伶仃洋^{リンテイ}に臨む三面が海に面した場所にあり、珠江河口に発達した砂州に造成された耕地である。本地区は亜熱帯海洋性季節風気候帯に属し、冬の厳寒、夏の酷暑がなく、雨量に富みながら、日照も充足している。

ギンムクドリ^{シゲムクドリ}のねぐらは新墾第 19 湧の東南角にあり、典型的な海岸湿地で、エビの養殖場がある周辺に植えられたマングローブ人工林の樹種は無瓣海棠 (*sonneratia apetala*)¹ が主で、マングローブ林の面積は 0.5km² で、平均的樹高は 6 m、周辺は潮の入る干潟で、毎年、冬にはガン、カモ、シギ・チドリ類が数万羽、越冬している。1995 年から新墾にギンムクドリが現れ、主に 15 湧の養殖池の 3 本のベンガルボダイジュ (*Ficus virens*)、樹高 5 m で 200m² を占める樹木に集まり、2002 年ころから現在の人工マングローブ林に移ってきた。当地の人によるとギンムクドリは毎年 10 月から 4 月まで滞在するとのことである。この群は主にギンムクドリ (*Sturnus seticeus*)² で、分布は華南地域、陝西省西南部から河南省、安徽省南部、江蘇省、広東省、海南島、四川省、雲南省で、国外には分布せず、わが国の固有種である³。

2. 研究方法

2005 年 1 月 6 日から 4 月 10 日まで広州市番禺区新墾^{シンケン}における冬のギンムクドリ群の観察を行なった。20 日間隔で 1 回、毎回 2 日を掛けて行ない、全 5 回観察を行なった。毎回ギンムクドリ^{シゲムクドリ}の飛び立ちと、ねぐら入りの 30 分前から、終わりまでの時間を観察した。3 名で観察し、うち 1 人は記録をとった。調査方法は直接係数法を用いた。

早朝ねぐらを飛び立つときと夕刻のねぐら入りの時間に個体数を計測して記録した。その種類の構成は 8 × 32~45 倍の望遠鏡により観察した。

3. 結果と討論

3.1 時間 多くのギンムクドリは早朝に飛び立つ時間が少しづつ早くなって行く、ただ、1 月 26, 27 日と 2 月 21, 22 日は曇、雨天であるためギンムクドリ^{シゲムクドリ}の飛び立ち時間が遅くなった形跡があり、3 月 22 日には時間が早まり 6 : 35 時ころとなっている (表 1)。飛び立ちの始めから最後まで時間は、ねぐら入りの終始時間と比較すると顕著に短かった ($P < 0.01$)。

3.2 ギンムクドリ^{シゲムクドリ}の群れの大きさと回数 ギンムクドリは早朝ねぐらを離れ、夕刻ねぐらへ帰る群れには、小群を作るものが多く、大群を作るものは比較的少ない。早朝ねぐらを飛び立つ群れと夕刻ねぐらへ帰ってきた群れの様子は基本的には変わらない (図 1)。

3.3 ギンムクドリ^{シゲムクドリ}における早朝飛び立ち群と夕刻就埒群の個体数と時間の関係 ギンムクドリ^{シゲムクドリ}の早朝飛び立ち群と夕刻就埒群の個体数は一様ではなく、しかもある時間に集中する。ギンムクドリ^{シゲムクドリ}の早朝飛び立ち個体数は 7 時から 7 時 10 分の間が最も多く、以後逐次直線的に減少する。夕刻ねぐらに帰るギンムクドリは 17 時 20 分から 18 時にほとんどがねぐらに入るが、17 時 20 分から 30 分の間が最も多くなる (図 2)。

表1 ギンムクドリの早朝離巢と夕刻就鳩の時間

月日	早朝開始時間	終息時間	持続時間(分)	夕刻開始時間	終息時間	持続時間(分)
1. 6	7:12	7:45	33	17:15	17:44	29
1. 7	7:03	7:34	32	17:10	17:50	40
1.26	7:13	7:50	37	17:02	18:07	65
1.27	7:18	7:33	15	17:36	18:10	34
2.21	7:20	7:45	25	17:07	17:54	47
2.22	7:18	7:46	28	17:09	18:00	51
3.22	6:35	6:35	5	17:45	18:40	55
3.23	6:36	6:36	5	17:39	18:05	26
4.10	-	-	-	-	-	-
4.11	-	-	-	-	-	-
Mean±SD**			22.5±12.6 ^A			43.4±13.5 ^B

*曇雨天, **A・B表示レベルの差異, P<0.001.

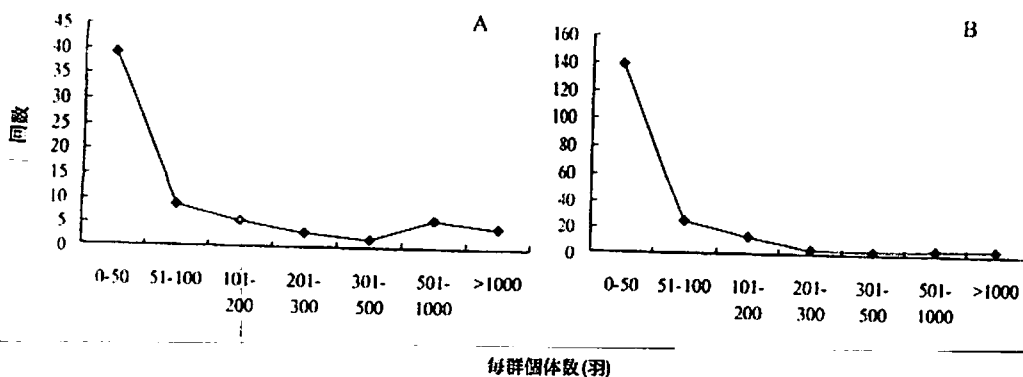


図1 ギンムクドリの早朝飛び立ちと夕刻就鳩時それぞれの個体数

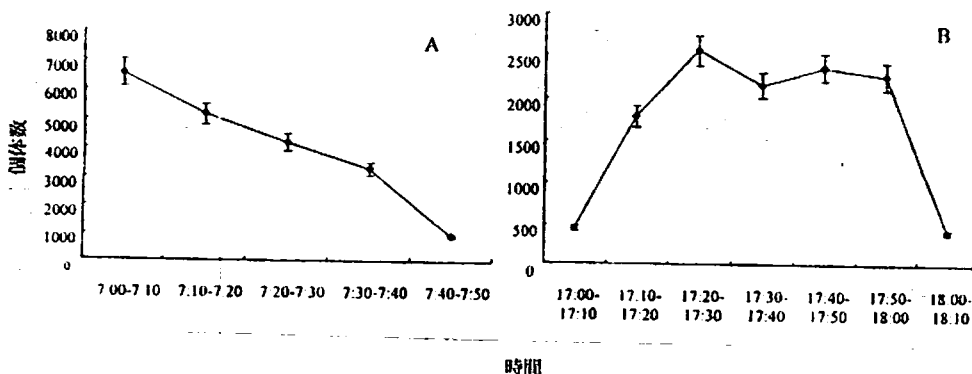


図2 ギンムクドリの個体数と時間の関係

A 早朝 B 夕刻

曇天, 雨天の場合は早朝の飛び立ち時間が遅くなる傾向がある. 曹壘らの報告によるとムクド

り (*S. cioneraceus*) における早朝の飛び立ち時間は日照が重要な因子として関わりがあるとしている¹²⁾。時間的に見ると、早朝の飛び立ち時間が集中し、30分ほどの間にほとんどが飛び立っていき、夕刻のねぐら入りはやや長い時間を要している。これは、採食地との距離によるねぐら入りの時間差と思われる。

本文の基礎的観察によりギンムクドリの早朝ねぐら飛び立ちと夕刻のねぐら入り行動にある傾向があることがわかったが、調査回数が少なく、今後も調査を必要とし、さらに採食地での群れの状況、行動の要因などを研究する必要がある。

訳注

*1 無瓣海棠 (*Sonneratia apetala*) ; 中国高等植物図鑑では検索できなかったが、インターネット検索では海棠 (*Sonneratia apetala*) とあり、香港に多く外来種との説明がある。また別の検索では海棠 (*Sonneratia caseolaris*) とあり、和名がベニマヤブシキとなっている。

*2 この群は主にギンムクドリ (*Sturnus seticeus*) ; とあるが筆者に問い合わせたところ、広州ではギンムクドリとムクドリが生息するが、一般的に混群は作らないとのことであった。